

ことばのうみ

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 43 2013.3

KOTOBA
N O
U M I

特集

特別展 ^{いにしえ} 往古のみやぎ — みちびかれる道 訪ねゆくまち —



■色鮮やかで詳細な絵図は、現在を生きる私たちが見ても旅心が湧きます。

図書館での時間

荒木 飛呂彦

1970年代。中学・高校生の頃、学校の勉強をするためというか、受験勉強をするために、机の場所を借りるために、仙台市榴岡公園のこの図書館に通いました。成績の良さそうな先輩や同級生たちと一緒に勉強する雰囲気、大人になったような、知性の世界への憧れで新しい良い気持ちでした。

でも、その時図書館で実際にしていたのは、推理小説やSF・ホラー小説をつい読んでしまうことで。机の上から撮影するのなら、教科書とか参考書の上に小説の本が乗っかっている姿と形になっていました。明日から試験だというのにやめられない、なんていうのはしょっちゅうで…。読んでいる本は必ずしも傑作とは限らず、中には超ヒドい駄作っぽい作品もあるわけ、その読書のエネルギーと時間を学校の勉強の方にもっと使っていれば…と思うこともあります。でも今思い返すと、人生で最も読書量があった「時期」という気がします。良いものも駄目なものも学べるのが図書館であり(笑)、その時期なのでしょね。

……それでいつ学校の勉強をしてたかという、やっぱり学校で、でした(笑)。

